



# 学校便り

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> Eメール [kanai-es@sado.ed.jp](mailto:kanai-es@sado.ed.jp)

佐渡市立金井小学校 平成28年11月25日 第8号

## 「かしこい金井っ子」を願って

校長 羽二生 裕

朝晩の冷え込みが厳しくなり、初霜の知らせも届くようになってきました。

11月の全校朝会では、「かしこい子になるために」という話をしました。要旨は次の通りです。「学校には節目節目に大きな学校行事があります。2学期には文化祭がありました。文化祭での学習発表会は各学年、とても工夫された素晴らしい内容でした。この大きな体育館で、〈相手意識（誰に）〉 お家の人や地域の皆さに、〈目的意識（何のために）〉 自分たちが学んできたことや体験してきたことを 分かりやすく伝えるために、〈場面意識（どのように）〉 大きな声で恥ずかしがらないで堂々と発表しました。 これらの3つのことをいつも意識して、学校で学習したり運動したり、家で生活したりすることが、『かしこい金井っ子』になるための秘訣です。」という内容でした。



これらの「3つの意識」は、子どもたちがこれから生きていく上で最も大切なものです。教室で子どもたちが学習をする時には、必ず相手を意識し学習します。例えば、自分が発表する時には、教室の友達や先生を意識し発表します。聞く時も相手を意識し聞いています。また、学校での学習や運動には、必ずそのめあて（目的）があります。例えば、子どもたちの大好きなドッジボールをする場合に

は、素早くボールをよけたり、ボールを投げたり、ボールを捕ったりするというめあて（目的）があります。ところが、子どもたちにとって、理解しているようで理解しにくいのが場面意識です。自分のいるその場で（その空間で）、周りを理解しどのように行動・実践すればいいのか・・・？子どもたちにとってはなかなか難しいものです。子どもの発達段階によっても、その場面意識は違ってきます。また、周りにいる大人の判断・考えによっても変わってくるでしょう。それだからこそ、学校や家庭で子どもたちに教えてあげなければいけません。例えば、メディア・コントロールがその一例になります。

これらの「3つの意識」を、自分で考え行動できる子どもになって欲しいという願いを込めて、全校朝会で子どもたちに話をしました。教えてあげると、自分から考え動ける金井小の子どもたちです。私が一年前の全校朝会で話をした「①靴のスピータ（高学年に）②あいさつサンドイッチ（中学年に）③廊下の右側歩行（低学年に）」お願いしたことが、今ではどの学年の子どもたちも意識できるようになってきました。子どもですから時にはできない時もあります。しかし、金井小の子どもたちは、物事を素直に受けとめ、やりぬくすごいパワーを秘めています。我々教師が感じたことを、子どもたちに語りかけると、しっかりと受け止めてくれる子どもたちです。校長として日々、嬉しく思う場面が多々あります。これらのことは、保護者の皆様の御理解や御協力のお陰であり、地域の皆様からの温かい御支援の賜であると感じております。今年度の金井小の教育活動も残すところ四ヶ月となりました。これからも子ども同士のかかわりを大切に「知・徳・体のバランスのとれた教育」を進めていきます。皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。